

急性心筋梗塞

原因

- ・急性心筋梗塞は、心臓を養う冠動脈の内部の動脈硬化病変がくずれ、そこにできた血栓により血管が完全に詰まることにより生じます。
- ・冠動脈が完全に詰まると約40分後から心臓の内側の筋肉組織の壊死が始まります。
- ・筋肉組織の壊死は次第に心臓の外側の筋肉へ波状的に広がり、6から24時間後には、詰まった血管により栄養されていた心臓の筋肉全体が壊死に至ります。
- ・狭心症は心筋の壊死がなく、心臓本来のはたらきであるポンプ機能は正常に保たれているのに対し、心筋梗塞では心筋組織が一部死に陥ってポンプ機能が障害され、広汎に及べば心不全やショックを合併することもあります。
- ・冠動脈の動脈硬化を進行させる因子を冠危険因子といい、高コレステロール血症、高血圧、喫煙、糖尿病、肥満、痛風、中性脂肪、運動不足、精神的ストレスなどがあげられます。

症状

- ・急性心筋梗塞は多くの場合、胸部の激痛、胸が締めつけられるような感じ、圧迫感として発症します。
- ・胸痛は30分以上持続し冷や汗を伴うことが多く、重症ではショックを示します。
- ・胸痛の部位は前胸部、胸骨下が多く、下顎、頸部、左上腕、心窩部に現れることもあります。

診断

- ・心電図検査で心筋梗塞の部位や冠動脈の詰まっている部位が推測できます。
- ・血液検査では、心筋が破壊されるために血液中に出てくる酵素が上昇しますが、ベッドサイドで簡単に測定できるトロポニンや心臓型脂肪酸結合蛋白の測定が有用です。
- ・しかし、いずれの酵素も心筋梗塞の発症から血液中で上昇を始めるまでには時間的にずれがあります。
- ・したがって、発症直後であればたとえ心筋逸脱酵素が上昇していなくても、急性心筋梗塞を否定することはできず、必要があれば時間を追って繰り返し測定しなければなりません。

救急車を呼ぶめやす

胸部の激痛、胸が締めつけられるような感じが30分以上持続し、意識状態が悪化するようなら、救急車を呼んで新潟大学医歯学総合病院や新潟市民病院などの高度救急センターに搬送してもらいましょう。